

県難病連絡協議会（北川修理事
長）のNPO法人化5周年を記念
したチャリティー企画「現代国際
巨匠絵画展」感動と安らぎを求め
て」が29日から、長崎市魚の町
の市民会館展示ホールで開かれ
る。売り上げの一部は、同協議会
に加盟する各難病患者会の活動
資金に充てる。入場無料。31日ま
で。

同協議会の実行委主催、長崎新
聞社など後援。スペインの画家、
フランシスコ・ポッシュ氏と妻、
ピラー・テル氏の作品を中心に、
ピカソや平山郁夫氏ら巨匠の絵画
（一部はリトグラフ）計約120
点を展示、販売する。ポッシュ氏
は海などを題材に心の安らぎにあ
ふれた日常をテーマにした作品

あすからチャリティー展

巨匠らの絵画120点販売



フランシスコ・ポッシュ氏の作品(左)とピラー・テル氏の作品

県難病連 売り上げで患者支援

が、テル氏は人物や動物をふくよ
かに表現した作風が特徴。夫妻も
来場し、期間中は毎日3回（午前
11時、午後2時、同4時）、サイ
ン会も予定している。

同協議会は2005年2月、患
者会8団体で設立。06年4月にN
PO法人化した。現在の患者会は
パーキンソンや膠原（こうげん）
病など13団体で計約2500人が
加入している。会場では各患者会
が難病への理解を深めてもらおう
と展示物で症状などを説明するほ
か、バザーも予定。北川理事長は
「財政が苦しい各患者会の自主活
動の支援、難病への理解促進につ
なげたい」としている。

同協議会(電)095・846・8
620。(下釜智)

10/28
長崎新聞

「トンボの目がピカピカ」

楽しいね お絵描き

NPO法人県難病連絡協議会（北川修理理事長）などで行う実行委員会が長崎市で開くチャリティ絵画展に合わせて来日したスペインの画家夫妻が28日、同市岩見町のひかり幼稚園（大谷英也園長、161人）を訪れ、園児と一緒に絵画を制作する交流会に参加した。

スペイン人画家と園児交流

県難病連絡協議会5周年記念

きょうからチャリティー絵画展

絵画展は29日から3日間、長崎市民会館(魚の町)で開催。難病患者とその家族に絵画を楽しんでもらい、感動と安らぎの気持ちを持ってもらおうと、同協議会の創立5周年を記念して初めて企画した。

期間中は、総数250作品を会場に準備し、常時120作品を展示、販売する。売り上げの一部は難病団体に贈られ、難病理解への啓発活動や最新医療を紹介する講演などに使われる。

来日したのは、スペインを中心に世界で活躍するパステル画家のフランシスコ・ポッシュュさん(62)と、水彩画家のピラー・テルさん(60)夫妻。絵画展には2人合わせて35点を出品。長崎を訪れるのは初めてという。交流会には年長の2クラ



フランシスコ・ポッシュュさん(右)の筆先を見詰める園児ら

長崎市、ひかり幼稚園

ス50人が参加。約2週間前からそれぞれ「秋」「海」をテーマに色付けするなど準備してきた模造紙に、園児一人一人が木の枝や色画用紙で作ったトンボ、海の生きものを両面テープで張り付けた。

この模造紙の中央に、夫妻がチョウやトンボ、クジラやペンギンなどを水彩絵の具でさらさらと描いて作品が完成。子どもたちは、絵の具の混ぜ方や描かれる動物や虫に歓声をあげながら、楽しそうに筆先を目で追っていた。

園児の古閑巧真ちゃん(6)は「トンボの目がピカピカ。おもしろかった」と笑顔。夫妻は「普段こういう機会がないので一緒に作業できて良かった」と話した。北川理事長はこの体験を思い出し「出たとして残し、治らない病気があることを知ってほしい」と話した。(小西愛純)

絵を通し園児と交流



園児のリクエストに応え、生き物を次々と描くポッシュさん(右端)

難病について理解を深めてもらおうと県難病連絡協議会は28日、長崎市のひかり幼稚園で、スペインの画家夫妻を招いて絵の交流会を開いた。連絡協創立5周年を記念して、29日から同市民会館で開く「現代国際巨匠絵画展」に合わせて企画した。絵画展は31日まで、入場無料。

園には、出展するフランススコ・ポッシュさん(62)と妻ピラー・テルさん(60)が来訪。年長児50

人と一緒に2枚の絵を制作した。園児らが約1カ月前から描いた夕焼けに赤とんぼが舞う絵や海の中を色とりどりの魚が泳ぐ絵に、ポッシュさんらがチョウやクジラなどの

川修理事長(66)は「子供たちが大きくなった時、この絵と『難病』という言葉を思い出して、難病患者について理解するきっかけになれば」と話していた。

ひかり幼稚園に県難病連絡協議会 スペインの画家夫妻招く

絵を書き足していった。田中美咲ちゃん(6)は「スペインはサッカーが上手な国だと思っていたけど、先生(ポッシュさん)は絵が上手だった。私もタコが描けるようになりたい」。連絡協の北

連絡協によると、原因不明で治療法が見つからない県内の難病患者は約1万2500人。絵画展の売り上げの一部は、難病についての啓発や患者会の活動支援に使われる。【蒲原明佳】



難病連だより



NPO 法人 長崎県難病連絡協議会



長崎県難病連創立 5 周年記念 チャリティー現代国際巨匠絵画展



開催日時：平成 22 年 10 月 28 日（木）～31 日（日）10:00～18:00

場 所：長崎市民会館 展示ホール
長崎市ひかり幼稚園

趣 旨：長崎県難病連創立 5 周年を記念して、患者や家族の方及び一般市民の方にも素晴らしい巨匠絵画を鑑賞していただき、文化を通して感動と安らぎの場にして頂く事を目的に開催しました。



☆画伯と幼稚園児との交流会☆
秋らしい紅葉色の広い台紙に園児個人が作ったトンボを貼り、その中央に画伯がチョウやキノコなどを書き入れ、園児達の歓声があふれていました。



☆創立 5 周年記念式典及び
記念パーティー☆
多くの来賓の方々、関係団体及び患者団体による記念式典と記念パーティーを華やかに開催しました。



☆画伯によるサイン会☆
スペイン画家フランシスコ・ボッシュ氏と妻、ピラー・テル氏によるサイン会を実施し、参加者に大変喜ばれました。



☆絵画展示風景☆
来日されたスペイン画伯の 2 人と国内外の有名な画伯の絵画等 120 点を展示し、見に来られた方は心が癒されたようです。



☆患者団体による受付・売店風景☆
患者団体の紹介を展示したり、患者団体で作った手芸品等を販売しました。

